公立昭和病院 広報誌 INFO-MATE SHOWA

インフォメイトしょうわ

Vol.09
January
2016

特集

健康寿命を延ばすために
手術室のマエストロ 麻酔科！
クレジットカードが使えるようになりました
公立昭和病院の本を出版しました
「患者満足度調査」アンケート結果のお知らせ
「第17回市民公開講座」のご案内

健康寿命を延ばすために

公立昭和病院 院長 上西 紀夫

明けましておめでとうございます。皆様には佳いお年をお迎えのことと思います。

さて昨年は、円安による良い面もあれば、消費税のアップや中国経済の下降傾向などによる景気の低迷、また、海外ではISによるテロの続発など厳しいニュースが多く、唯一の明るいニュースはラグビーワールドカップでの日本の大活躍であったように思います。今年は「申年」で閏年でもありますが、「申」の意味は辞書によれば果実が成熟していく状態を意味するということで、経済、医療、社会保障などが好転し、皆様が元気に過ごせることを期待したいと思います。

そこで今回は「健康寿命」について少しお話しさせていただきます。市民の皆様には、戦後のベビーブームで生まれた団塊の世代が10年後に75歳に達する「2025年問題」についてご存知の方も多いかと思います。その一方で、近年の少子化により65歳以下のいわゆる生産年齢層は減少し、すでに総人口は減少の道を辿りはじめました。その際に問題となるのが、増加を続けている高齢者の医療費や社会保障費を誰がどの程度負担するのかという事になります(図)。国では「社会保障と税の一体改革」の方針の下、消費税のアップや所得に応じた医療費や社会保障費の負担額の増加を図っています。実際、医療費については年々増加しており、昨年度では65歳以上の一人当たりの医療費の平均は年間で約70万円、75歳以上では90万円を超えています。

従って、少しでも医療費や介護費用の増加を抑えるためには病気の予防、そして健康寿命を延ばすことが大変重要です。予防のためには、まずは病気のことを良く知っておく必要がありますが、残念ながら知識レベルの高い日本において学校での医学、医療に関する教育は十分とは言えません。その一方で、インターネット上では病気に関する情報が溢れていますが、それぞれが断片的あるいは個別専門的で、一つの大きな枠の中で捉えられているとは言えません。また、場合によっては疑問符のつく内容も少なくありません。

そこで、当院では市民の皆様に各種の病気の基本的なことや病院の活動について知っていただくことを目的に、この度「公立昭和病院の最新の医療—病気と治療の優しい説明」を刊行しました。お近くの書店、あるいは当院のコンビニで販売しておりますのでご活用いただければ幸いです。また、当院の2階には患者さんやご家族のための図書室「やすらぎの森」を開いております。こちらもご利用いただけれと思います。

もう一つ重要なことは病気やそのリスクを早期に発見することです。すなわち健診を活用することです。病気やその可能性を

中面につづく

地域医療連携室だより！

介護のことで困ったら

病気になると健康な時にはなかった心配事がいろいろとおこります。そんな時、当院では医療ソーシャルワーカーがご相談を受けていますが、大切なご家族や身近な人が突然介護を必要になって慌ててしまうという方も多くいらっしゃいます。そこで今回はもしもの時に困らないための基礎知識をご紹介します。

困ったときは相談しよう

【相談窓口】

・地域包括支援センター

・市区町村役所の介護保険課や高齢福祉課

「地域包括支援センター」は高齢者の総合的な相談・サービスの拠点です。介護保険だけでなく様々な制度や社会資源の情報提供や在宅生活に関する支援を行っています。お住まいの地域により担当のセンターが決まっています。

介護保険を利用するには申請を

65歳になると「介護保険被保険者証」が交付されます。しかしサービスを利用するにはどれくらい介護が必要かを判定する「要介護認定」を受けなくてはいけません。そのため市区町村役所に申請が必要です。地域包括支援センターで代行申請も可能です。

「要介護認定」がおりたらケアマネジャー（介護支援専門員）を探しましょう

要支援1・2→地域包括支援センターへ連絡

要介護1～5→居宅介護支援事業所へ連絡

ケアプランを作成してもらおう

ケアマネジャーはサービスが利用できるように調整してくれる専門家です。介護用ベッドを借りたい、家でお風呂に入れるか心配など相談しながらどんなサービスを利用するか「ケアプラン」を作成してもらいます。ケアプランができたらいよいよサービスの利用が始まります。

申請から認定が下りるまでに1か月程度の時間がかかるなど、サービスを利用するには時間がかかります。困ったことがあったら一人で悩まず、早めに相談をすることが大切です。

★当院では受診の際に「介護保険被保険者証」を確認させて頂いていますのでご協力お願いします。

《公立昭和病院の理念と方針》

【理念】

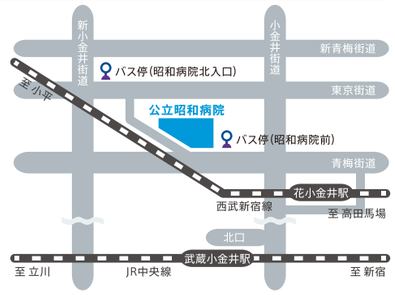
一人ひとりの命と健康を守り、医療の質の向上に努め、
熱意と誇りを持って地域社会に貢献することを目指します

【方針】

1 地域医療支援病院として地域連携を推進します
2 科学的根拠に基づいた医療を提供します
3 急性期病院として高度専門医療、救急医療を実践します
4 がん拠点病院としてがんの予防から治療までを担います
5 信頼される優れた医療人を育成します
6 健全な病院経営に努めます

当院は、東京都多摩地域の小金井市、小平市、東村山市、東久留米市、清瀬市、東大和市、武蔵村山市および西東京市の8市で構成されている昭和病院企業団により運営されています。標榜診療科は全31科。休日・夜間救急医療をはじめ、高度・専門医療、予防医学的事業、地域医療センターとして高い機能を発揮して、地域の医療需要と信頼に応えています。

公立昭和病院
〒187-8510
東京都小平市花小金井8-1-1
tel.042-461-0052
fax.042-464-7912
www.kouritu-showa.jp



表面のつづき

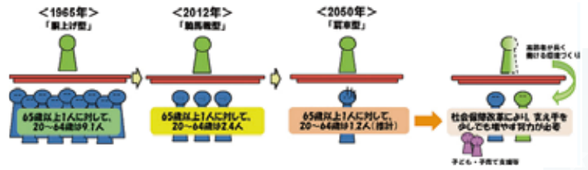
早期に発見することで治療成績は向上し、健康寿命を延ばすことができます。例えば「がん」の場合、早期に発見できれば身体への負担の少ない手術などで完治させることが出来ます。もし進行していれば手術も大きくなり、入院期間も長くなり、高価な抗がん剤も必要となってきます。実際、よく経験することですが、会社に勤務され毎年職員健診を受けたり、あるいは住民検診を受けたりしていて何年も異常がないと診断されたため、定年後や60歳以後になると検診を受けなくなり、結果的に進行したがんが見つかることがあります。定年後や60歳以降がん年齢ですので、積極的に検診を受けてください。

また、月に2回、院内の病棟回診をしていますが、最近目につくのが50～60歳代の脳梗塞、心不全の患者さんの増加です。飽食時代の影響でしょうか。当院でも予防・健診センターで各種の検査をしております。また、構成8市の市民であれば優遇措置もあります。詳しくはホームページをご覧ください。何はともあれ、将来に備えて健康寿命を延ばすよう心がけましょう。

（図）

「肩車型」社会へ

今後、急速に高齢化が進み、やがて、「1人の若者が1人の高齢者を支える」という厳しい社会が訪れることが予想されています。



手術室のマエストロ　麻酔科！

副院長（麻酔科部長）　池田 みさ子

「麻酔」という言語の起源は江戸後期の蘭学者杉田成卿がドイツ語で書かれた医学書のオランダ語訳を日本語に訳した時に意識消失と鎮痛状態を「麻酔」と表現したことから始まっていると言われています。NHKのドラマにもなった「華岡青州の妻」では世界で最初の全身麻酔下乳がん手術の場面がありましたが、その際経口全身麻酔薬の麻沸散（曼荼羅華、草烏頭などの生薬からなる煎薬）を用いた話は有名です。この曼荼羅華（別名：朝鮮朝顔）は痛みのコントロールにBC2000年頃から用いられているといわれています。

「朝鮮朝顔と麻酔科学会のロゴマーク」

さて皆様は、このような「麻酔」という言葉から思い浮かべることは、『手術を受けるとき眠ったままで痛みも無く何も知らないうちに悪い所を治してもらえる便利なもの』と思われているかもしれません。しかし、手術という大事業は人体を切り開くというとてつもない傷害を人体に与えます。人体はその傷害に対して防御反応を起こし、その反応は人体に有害となることや手術の進行の妨げになる事象も含まれます。たとえば、手術で皮膚を切開するとき筋肉が硬いと手術の操作はスムーズに進みません。そこで、麻酔科医は筋肉を柔らかくする薬（筋弛緩薬）を使用します。この薬剤は呼吸をする筋肉をも柔らかくしてしまい患者さんご自身で呼吸ができなくなってしまうので、気管に管を入れ（気管挿管）人工呼吸を行います。また、手術操作による痛みの強さの変化に反応して、血圧が上がったり、心拍数が増加したり、また、代謝への影響も出てきます。そのため、手術中の痛みに応じて麻酔薬や鎮痛薬の投与量を変えて適した薬剤量を投与するよう気を配っています。麻酔科医は常に手術患者さんのこれら生理状態を観察し、即適切な処置を行っています。常にこれらの変化に対応しつつ手術が順調に行われるようにするのが麻酔科医の仕事です。麻酔科医は手術中に患者さんの側を一時も離れずに安全な手術のために患者さんと共に戦っているのです。

麻酔科医は、術前より個々の患者さんに一番適した麻酔方法の選択、既往歴や合併症などの状態を把握するため、事前に周術期外来にて診察し、時に検査の追加や呼吸練習などをお願いしたりすることもあります。また、術後の痛みの治療には、局所麻酔法を用いた「持続硬膜外鎮痛法」や個々の患者さんがご自分でボタンを押すことで鎮痛剤の投与量を調節できる「自己調節鎮痛法」などを用いています。このように術前から術後まで患者さんが安全に周術期を送れるよう努めております。そして、手術が滞りなく行われるよう外科系医師や看護師と協力して患者さんの治療にあたっています。また、手術部の日々の運営は麻酔科医が中心となり行われています。

麻酔科医は皆様とお目にかかることは少ないですが、手術室のマエストロとして外科医系医師・看護師・メディカルクラーク・臨床工学技士・薬剤師・放射線技師らとチームを組んで働いております。

クレジットカードが使えるようになりました

患者さんの利便性向上のため、診療費及び人間ドック等の利用料金が、クレジットカードでお支払いいただけるようになりました。

【利用可能なクレジットカード】

JCB / VISA / Master Card / Diners Club / American Express / Discover Card

公立昭和病院の本を出版しました

『公立昭和病院の最新の医療～病気と治療のやさしい説明～』の出版

この度当院では、公立病院に求められている「安全で質の高い医療」をわかりやすく説明し、患者さん自身に病気について少しでも理解していただく助けになることを目的として出版しました。

この本では、「よくある病気」についての標準的な治療法、そして最新の治療法について、当院の専門医がわかりやすく説明しています。巻頭では当院の先端医療について13項目、本編では最新医療について66項目をピックアップしています。診察室で聞くだけではなかなか理解しきれない病気や治療の説明を、ゆっくりと読んでいただけるとおもいます。各ページには、豊富なイラストと写真を載せ、難しい医療用語はなるべく易しい言葉に置き換えたり解説を付けてるので、とてもわかりやすい本になりました。

本をご希望の方は当院のコンビニやお近くの書店でお求めになることができます。

「患者満足度調査」アンケート結果のお知らせ

平成27年9月に、入院、外来患者の皆様を対象として、満足度調査を実施させていただきました。ご協力いただきました皆さまにお礼申し上げるとともに、ここに、入院と外来における全体満足度の調査結果について報告いたします。

この他に、接遇や診療体制面、病院設備やアクセス面等、多数のご意見をいただきました。調査結果については、今後の病院運営の参考とさせていただき、これからも改善に努め、質の高い医療の提供とサービスの充実に取り組んでまいります。

患者さんから寄せられたコメントの一部です

Q.当院に入院されてよかったと思いますか？

【コメント】
- ○先生をはじめ看護師さん、職員の方達に本当によくして頂きました。皆様のおかげで元気になれました。
- ○ナースさんの対応が優しく言葉もやわらかく、安心できました。
- ○きめ細かいケアがすばらしいと思いました。

入院全体満足度

98.0%

（満足+やや満足 ／ 満足+やや満足+やや不満+不満）

調査期間：17日間
配布枚数：422枚
回収枚数：338枚

Q.当院を受診されてよかったと思いますか？

【コメント】
- ○以前来院した時と比べると職員の態度、対応等が各段に良くなっている。ガンバって！！
- ○いつも心優しく対応して頂いています。ありがとうございます。
- ○診察がていねい。説明がていねい。
- ○いつも清掃が行き届いていて、病院の嫌なイメージがなく通院できます。

外来全体満足度

93.1%

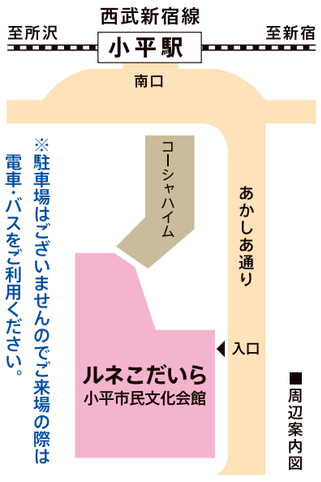
（満足+やや満足 ／ 満足+やや満足+やや不満+不満）

調査期間：5日間
配布枚数：2,337枚
回収枚数：2,300枚

「第17回市民公開講座」のご案内

日時／平成28年2月6日(土)
午後2時30分から午後4時まで

場所／ルネこだいら 中ホール
（西武新宿線　小平駅南口）



内容／

「肝臓がんの診断と治療について」　公立昭和病院　消化器内科医長　細川 貴範
「肝臓がんの外科治療について」　公立昭和病院　外科・消化器外科医長　奏 正二郎
「高血圧 ～どこまで下げればよいの？～」　しみず内科循環器クリニック院長　清水 寛

入場無料、事前申し込み不要です。お気軽にご参加ください。

お問い合わせ先／医事課医事管理係　042-461-0052(代) 内線2171

市民公開講座